

学校法人東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月15日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

自己点検・評価項目	自己評価	現状の説明	長所・課題とその解決策	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見	
	優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント						
小項目1ー1 教育理念、目的及び目標の設定等				3	・授業見学の際に実学を重んじる方針は学生を成長させていると実感できる。 ・新コースの設定の方向性はこれからの日本を支える分野であり、ぜひ人材育成に励んでほしい。 ・学園全体の建学の理念を共有していることは、大変素晴らしいことである。特に、AIの発達等で、GeneralistよりもSpecialistが求められる時代になり、それが年々高くなってきているので、専門学校必要性もそれに連れて高まっている。 ＊このことを生徒さんたち一人一人が頭に入れ、今まで以上に、前向きに研究に取り組んでほしい。 ・滋恵学園グループ全体に建学の精神・教育の理念が浸透しています。それは実学教育・人間教育・国際教育です。この理念を基に共通した同じ価値観で教育が行われていることに感銘します。 また東京バイオにしか出来ない！ここでは学べない！ここでしか出会わない！を創造する。そして何かを作りたい！ 何かを作り人の役に立ちたい！これを具現化する教育は最高の評価を受けるべきだと思います。 また教務部内にキャリアセンターを設置して、学校教育と企業の連携を強化して産学連携のネットワークを展開する体制も大きな評価の材料です。	
1-1-1 教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科ごとに育成する人材像を明確にしていること。	3	教育の理念:実学教育 人間教育 国際教育(滋慶学園建学の理念) 目的:学校教育法に基づき、農業系バイオ(バイオテクノロジー)術者として必要な知識、技術を修得した人材を養成することを目的とする。 学科ごとの育成人材像:学生便覧にコースごとに記載している。(評価委員会当日提示させていただきます)				(長所) 滋慶学園グループとして様々な分野の人材育成をしているが、共通した建学の理念の基に学校運営しており、同じ価値観で教育できている。 (課題) 特になし
小項目2 職業教育のマネジメント体制の整備						
1-2-1 職業教育を推進(教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等)するために必要なマネジメント体制を整備し、有効に機能していること。	3	教務部内にキャリアセンターを配置、また産学連携センターを設置し、業界と連携した教育マネジメントを実施している。また全職員で学生情報共有会議を実施し、学生一人一人を様々な視点で見ることによって教育マネジメントを行っている。 学校長、副学校長とは別に事務局長を学校運営責任者とし、教務部長、各センター長がそれぞれの部門の意思決定と事業計画遂行の責任を負う体制としている。	(長所) 教務部内にキャリアセンターがあることで、学校教育と企業連携がとりやすい。また産学連携を推進する別部署があることで日本全国に渡るネットワークをダイナミックに展開していくことができる。 (課題) 新コース(未来素材化学開発)の産学連携先、就職の新規課題は課題であり、日本全国を対象に開拓を進めていく。			
基準2 教育課程、教育の実施、学修成果						
小項目2ー1 教育課程の編成と授業科目				3	・留学生は中国人以外はいないでしょうか？ →韓国等他国もいます。 ・大学、地域との連携を積極的に進め、社会課題を解決していく卒業研究はレベルの高さを感じる ・綿密なカリキュラムを確認できた。学ぶべき内容は多く、更に選択肢が多いことがわかった。 ・日本の専門知識を学びたいという留学生がいる中で、スタッフの配置は、大きな選択肢の一つになったと思った。 ・これから国際化は必須になると考えます。 ・現在、外国人社員・労働者の需要が年々高まっており、今やそれを抜きには労働集約的産業は成り立たなくなってきた。従って、留学生に対する就職支援や、語学や文化的な教育は大変重要である。 ＊貴学が、今後どのような形で留学生を採用していけるかにより、上記にはさらに力を入れて頂ければ考える。 ・学校の教育目標・目的及び育成人材像を実現するために、教育課程編成委員会メンバー・授業を展開する講師陣との打ち合わせで、業界が求める最新の情報を授業に取り組む姿勢があります。 また外国人の留学生には300時間を超える日本社会の理解を深める授業科目を実施し、さらには留学生のために外国人スタッフを採用して外国人の日本理解を深める試みは高い評価です。	
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	3	カリキュラムポリシーに基づき、キャリア教育、専門基礎知識、専門知識・技能という科目群を体系的に編成している。				(長所) 教育課程は段階的にステップアップできるように作成されており、学生は最適な順番で科目受講することができる。 (課題) 欠席学生への補習などが課題であり、中長期的には動画教材などの整備が必要。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【職業実践専門課程】	3	教育課程編成委員会メンバー及び非常勤講師より最新の業界情報を得たうえで最適な教科、教育内容を精査している。 2025年度実績:5月16日 11月14日				(長所) 業界経験が長く、豊富な経験をもった非常勤講師からはいつでも最新情報や意見を伺うことができる。 (課題) 特になし
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	2	外国人スタッフ(中国人)を配置し、学校生活の相談窓口を設けてはいるが、留学生に向けた日本社会の理解を深めるような取り組みはできていない。				長所) 外国人スタッフがいることで入学手続きや在留手続きなどがスムーズに行える。 (課題) 留学生が日本の社会や文化を理解したうえでの就職支援、そのフロー化とシステム化

小項目2ー2 教育課程の実施					実習授業、卒業研究の枠を設定して建学の精神・学校の進むべき道がぶれないことは素晴らしい。 ・業界に直結している専門の講師の方が70名近くいることに驚いた。身近にその道のプロがいて、質問できる環境にあるのだと感心した。 ・コマシラバスの配布により、学すべきポイントがつかみやすくなっている。 ・小テストやレポート確認での日々の評価は、手間もかかると思うが実施してもらえてところが、手厚さを感じた。 ・グループ研究でのグループの決め方は、生徒同士で決めるのか？また、自分の希望に添えないこともあるのか？ →研究テーマで希望を募って決めます。また、人数過多のグループは調整することもあります。 ・学内発表のみならず、学外発表で成果発表できること、さらに企業の方からもご意見を頂けるところが将来的にも良い経験だと思った。 ・実習を通じて座学との差を感じることは大事なことです。 ・滋慶学園内での交流を兼ねた、他の学園の授業受講を推進されるのは、とても重要である。それによって、一つ一つの学校は小さくても、滋慶学園全体としては大きな学校であることを認識でき、生徒さんたちが大きな自信になると思う。 ＊また、学内や学外での研究発表会は、自分が研究してきたことの再確認ができ、合わせてそれを他の人たちに分かってもらうことは、本人にとって大きな自信になると考える。 ・授業の科目内容に応じて、講義・演習・実習の時間が充分に確保されています。 さらに産学連携の授業・実習は参加企業が192社を超える盛況ぶりで、実習で実学の経験と即戦力になる人材の育成が大きな特徴だと思います。卒業研究も660時間の設定は学校内の発表・学外での発表を含めて学生に貴重な経験の場を与えています。このことは高い評価と言えます。 ・引き続き、卒業認定は厳しくする体制を維持してほしい。
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	3	科目の目標に照らし、講義、演習、実習を適切に選択している。 全科目でシラバスはもちろん1コマずつのコマシラバスも作成、配布しており、授業ごとの達成目標やポイントを説明してから授業を実施している。 学則及び施行細則に評価基準を設けており、学生便覧に記載、学生にも説明している。	(長所) 実習授業を多く設け、技術力の向上を目指している。 (課題) 特になし		
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という)の授業を行っていること。また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【職業実践専門課程】	3	卒業研究を中心に産学連携した多くの取り組みを実施している。 卒業研究は660時間設定しており、卒業学年の多くの授業を占めている。 卒業研究は学内発表会、企業の方もお招きしての学外発表、そして研究論文の3つの要素によって評価される。	(長所) 卒業研究の学外発表では毎年多くの企業の方にお越しいただき、パネル発表を通じて学生と企業の方が直接質疑応答することができており、実践的な学びの場となっている。 (課題) グループ研究では積極的に取り組む学生と、そうではない学生との差が生まれてしまう。	3	
小項目2ー3 単位・卒業認定					3
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	3	卒業の基準は学則及び施行細則に定められており、学生便覧に記載し、オリエンテーション等で説明している。 卒業認定については学校長、局長、部長、教務スタッフ出席の卒業進級会議によって判断される。	(長所) ディプロマポリシーに基づき、卒業進級判定会議で厳正な判定がされている。 (課題) メンタル不調で授業出席が通常通り行えない学生への長期履修制度の運用		

小項目2ー4 学修成果目標の達成状況					・就職後1年以上だと離職率は高くなりますか？ →1年以上で離職率が上がることはありません。ステップアップのための転職はあります。 ・就職1年で離職すれば、企業は赤字です。 ・就職指導は継続的にして大学や地域と連携強化を図り、学生のニーズに応える体制となっている。 ・学生便覧での明確化に加えて、少人数ならではの、キメ細かい指導をいただけることで、卒業認定判定に納得し、さらに認定を得られた生徒は、自信につながった。 ・就職率の高さは、入学前から重視していた点だった。 ・現在社会的に問題視されている離職、転職ですが、離職率が低いという面でもキャリアセンターでの十分な話し合いが想像できた。入社後のギャップが生まれないように今後も期待したい。 ・キャリアセンターでは、学校で身に着けた専門性は、卒業後には大きな力になることを、ぜひ生徒さんたちに理解してもらおう、説明してほしいです。（もちろん、既に実施されているとは推察します）	
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	3	卒業認定方針に明示した職業能力の修得状況については、授業ごとの小テストや定期試験、レポートなどで評価している。	(長所) 卒業進級に関わる目標、評価、教育課程などはすべて学生便覧にまとめられている			
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	3	就職対策授業を取り入れ、担当講師、担任、キャリアセンターで指導、相談受け入れをしている。 就職活動についてはキャリアセンター、担任の個別面談を通じて活動状況を把握している	(長所) 少人数制を活かした就職マッチング力 卒業後1年以内の離職率の低さ (課題) 特になし	3		
基準3 学生の受入れ、学生支援						
小項目3ー1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理				3	・入学定員を確保して財務基盤の安定化は素晴らしい。今後も東京都を中心に関東近県、全国から学生が集められるような様々な試み、広報活動に尽力してほしい。 ・募集要項の記載が分かりやすくて良い。(冊子、HPともに)金額提示も問い合わせ先も明確になっていた。 ・「大学全入時代」と言われる中、定員の充足は、専門性の高さへの魅力と就職率の高さにあると思った。産学連携、インターシップのでの実践的学びが大学とは違う魅力だと思った。 ・既に、委員会でもお話を伺いましたが、4年生大学に入学できなかったから、専門学校に行くことにしたということではなく、これからの世の中は、専門性を持った人間が社会に入っていくことが不可欠。そのために専門学校で学ぶというスタンスで入学を考えてもらうことが大変重要である。 ・入学者の受け入れは公平に的確に実施されています。入試に関することはホームページで誰でも調べられるようになっており、入学案内や願書にも詳しく明記されていますから、受験生や保護者・学校関係者も不安なく受験できる体制だと評価します。 今後は外国からの留学生の増加が考えられます。語学ばかりか生活習慣・食生活・宗教等のことも多くの配慮が大事になります。 学生サービスセンターには、外国語の堪能なカウンセラーの配置も必要です	
3-1-1 入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	3	入学者受け入れ方針については、アドミッションポリシーで方針を定め、募集要項にも記載している。 入学者選抜方法、手続きについては、すべて募集要項に記載している。HPにもあげている。 入学選考は事務局長、教務部長、広報センター長、学生サービスセンター長による入試判定会議で決定している。	(長所) 入試及び手続や学費に関する情報は募集要項にすべて記載しており、情報提供に問題はない。 (課題) 特になし			
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。 【修学支援新制度機関要件の確認】 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	入学定員は充足しており、在籍学生数は適正に管理している。	(長所) 入学者確保による財務基盤の安定 (課題) 特になし			
小項目3ー2 多様な学生に対する修学支援						
3-2-1 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	3	合理的配慮に関する面談及び取り交わしは、入学前、在学中も随時行い、出来ることと出来ないことを明確にしている。 留学生については、前述している通り、外国人スタッフにより対応している。	(長所) 合理的配慮のステップは局長、教務部長同席で行うことで多面的に判断できている。 (課題) エレベーターや誰でもトイレがないので身体障がい者の受け入れ限界がある。	2.8	・障害者、留学生の対応は必要ですが実現するのは、難しいですね。 ・先輩・後輩のメンター制度、グループ相談(同学年の学生同士)の充実も望まれる。 ・出来ること出来ないことを話し合い受け入れようとされているところが良い。 ・実際に利用させていただき、相談させていただいている。提出時に不安な内容も確認していただき、アドバイスを頂けて助かっている。 ・障がい者の学びの受け入れは必要になってくると思います。校内のバリアフリーも必要になると思います。 ・多様な学生により十分なサポート体制を創るため、多少場所が違っても、より充実した設備のビル等に移転することが可能だと良いですが、今のところは記載の通りの対応がベストだと思います。	
3-2-2 特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	2	入学手続きや各種事務手続きなどの支援として外国人スタッフを配置し支援している。 外国人学生の在籍管理、進路指導については、担当者が定期的に面談を実施し個別の状況を把握している。 日本人との交流会は特に設けていないが、小規模の学校なので自然と交流は図れている。	(長所) 留学生も多くはないので個別対応が可能 (課題) システム、フローとしての外国人教育はできていない。			

3-2-3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	日本学生支援機構の奨学金予約制度の案内、学費相談窓口(学生サービスセンター)を設置している。	(長所)学費相談が教務とは別部署であるため、学生も相談しやすく、教員も教育的側面での指導支援ができる。 (課題)専門部署任せになってしまい、学生の生活状況が把握できなくなるが、今後は学生情報共有会議で部署間情報交換を強化していく。		・合理的配慮をしながら、障害のある学生や外国からの留学生・社会人経験者に接していることを高く評価します。 ただ国公立の学校や施設環境と違い私学では、人材・資金・設備投資などにも限界があります。ですから教育内容の充実のために国に対して大幅な支援を求めるべきだと思います。 また経済面では予約奨学生制度や学費の相談窓口を開設し、細やかな学生支援体制をとっていることは高い評価ができます。	
小項目3-3 学生生活に関する支援					3	・ 教務スタッフのメンタルケアは実施されていますか？ →年に1回ストレスチェックの実施、必要に応じて産業医の面談を受けるようにしています。 ・カウンセラーの研修で教職員の相談スキルを高め、学生に対するすそ野の広い支援を望む。 ・利用者の多さに驚いた。また、利用者の増加に伴い、時間や回数を増やしているところが良い。 ・遠方ではあるが、健康診断の他にも、インフルエンザ予防接種などもネット予約が可能で、さらに低価格で利用できて良い。 ・先生及び学生に対し、カウンセラーは今後必要になってきます。 ・メンタル的な問題を抱えている学生さんが増えつつあるとのこと、可能であれば大田区内にあるメンタルクリニックと提携され、個人情報尊重した形での契約を結んで、学生さんたちに利用してもらうことはできないでしょうか？ ・学生が病気やケガの場合は(慶生会クリニック)心の悩みや相談事は(カウンセラー)を対応がしっかりしています。カウンセラーと教務部長そして担任が、必要な案件では情報の共有をしながら支援する体制があります。さらに充実するためには、カウンセラーの増員と回数を増やすことがこれから必要になると思います。支援体制も評価できます。
3-3-1 カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	3	カウンセラーを週に1日配置、学生にも告知している。また、カウンセラーと教務部長、担任と連携して情報共有を図っている。	(長所) カウンセラーと教務スタッフとの情報共有は図れている。 (課題) 利用学生の多さ、メンタル不調の重篤化があり、週1日では不足している。2026年度は週2回、2名のカウンセラー体制で運営する。			
3-3-2 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	3	健康診断は毎年定期的に実施しており、2次検査受診まで個別に支援している。	(長所) 慶生会クリニックという学園の医療機関を持っている。 (課題) 慶生会クリニックが葛西にあり、遠いため利用しづらい。			
小項目3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援					2.3	・実施は必要ですがスペースがないですね。 ・近隣の図書館等の活用。 ・入学前教育や補修授業の実施は、心強い。 ・学校外には、フリースペースも増えているが、やはり学生なので金銭面で学校での自習スペース開放があるとありがたい ・この学生スタッフに参加できたことにより、視野が広がった。 ・学生間の交流が必要と考えます。 ・当件も、上記3-2と共通の課題であるが、新たな場所に移転することは、法律上無理なのですね？自主学習スペースの確保は不可欠と考えます。 ・課外活動の時間が少ないのが、専門学校ですが授業や研究を離れた場所で、学生や指導者が体と頭を休め、共に人間関係を作る活動は必要です。それによってリフレッシュされた思考回路で新たな挑戦が可能となります。 また入学前に課題として、基礎となる教科のテキストを配布して事前学習と学びなおしも必要な時代だと思います。
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	2	滋慶学園グループの全校で、広報(学生募集活動)は入学前教育として位置づけ、その職業に対する目的意識ややる気を強化するものとしてとらえている。また、入学決定者にはプレカレッジという行事を設け、学生同士の交流や入学に向けての準備を行っている。 自主的な学習については、空き教室を解放しているが十分とは言えない。	(長所) 個別対応については、一人一人の個性に合わせて実施できている。 (課題) 自主学習スペースが整っていない			
3-4-2 正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	2	部活動やボランティア活動は実施していない。学生スタッフという活動があり、オープンキャンパスの運営のみならず、近隣小学校への出張授業のサポート活動を行っている。	(長所) 学生スタッフについては、学校を超えて学園グループ各校の学生とも交流できる。 (課題) (専修学校は職業教育なので)課外活動は多くない。教育行事を通じて学生同士の交流の機会を多く設けていきたいと考えている。			

基準4 教員・教育実施組織					
小項目4-1 教員の配置、募集、採用				2.8	・教務スタッフの求人不足ですか？ ・専門性の高い教員の配置をしている。素晴らしい。 ・新採用者を新しく開拓しながら、能力の高い専任者を育てる指導体制が整っています。高齢者の経験・技術を新人に伝え育てる体制の将来が楽しみです。 不足がでないよう、しっかり採用と指導体制をお願いします。
4-1-1 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に配置していること。	3	医療系国家資格学科のように、教員規定が明確に定められているわけではないが、建学の理念や育成人材像への共感、学生指導方針の遵守を基本に職務経歴について面接を行い、採用している。 教員の配置については、学則に基づき、基幹教員及び専任教員を配置している。	(長所) 新任教員についてはJESC(滋慶教育科学研究所)主催の初任者研修を実施し、理念や教育システムについて統一した考え方を周知している。 (課題) 講師の高齢化に伴い、新任教員の開拓も必要。		
小項目4-2 教員の組織編制等				3	・外部との連携も笑顔でフランクな対応ができている。継続してほしい。 ・学校全体は学校長を中心に教務部長・各センター長を配置して、責任体制を明確化しています。 同時に学校法人としての滋恵学園も理事会・評議会・各種の委員会・部会が整備されていますから、安心と信頼のできる体制だと評価できます。
4-2-1 学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	3	学則に基づき、学校長のもと、教務部長、各センター長を配置して責任体制を整えている。 事業計画で組織図、職務分掌、各担当責任者を明示している。年度が始まる前には学園、学校ごとにスタート研修を実施し、目的目標を共有しながら運営している。	(長所) 事業計画に組織図のみならず職務分掌や担当が決められており、それらは一人ずつファイルされた資料として持っている。 (課題) 特になし		
小項目4-3 教員の資質の向上				3	・学生にメンタル不調者が多くで教務スタッフが心身ともタフである事が大事だと思います。 ・教務スタッフの定期的なカウンセリングを行う事を希望します。 ・授業の振り返り、グループワークの充実によりクラスマネジメントがより高まることを期待する。 ・先端技術の確認も必要と考えます。 ・研究にも関係すると思うが、AIとかDXとかに関連する授業も、ぜひカリキュラムに加えてほしい。これらは、頭で何となく理解していても、実際にいろいろな形で利用してみないと、分からないことが多いと推察する。 ・職員の配置をみると、専任者15名・非常勤者70名・パート職員2名の体制で学校運営がなされています。 その中で学内研修が年間4回実施され、ミクロ・ミドル・マクロと研修目標をしっかりと定めていることは評価できることです。 この研修や研究が教員の質の向上と指導力のアップに繋がりがり、産学連携する企業からの信頼にもなっていることは高い評価です。
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3	JESC(滋慶教育科学研究所)主催の各種研修を実施している。 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD研修もJESCにより段階ごとに複数の研修を受講している。 研究活動、自己啓発としてはバイオ分野の教育研究部会に参加して同分野の学校間での情報共有を図っている。	(長所) 学園内に教職員の質向上を目指した研究機関(JESC)があることで研修が充実している。 (課題) 学校現場の仕事量と研修時間のバランスを保つこと、研修内容を現場に活かすこと。		
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【職業実践専門課程】	3	バイオ教育部会、日本組織培養学会等に教員が参加しており、技術向上を図っている。	(長所) 研修内容を授業内容に落とし込むことができおり、最新の技術や情報を学生に提供することができている。 (課題) 特になし。		
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【職業実践専門課程】	3	教育改革センター主催のクラスマネジメント研修(赤坂真二先生)を継続受講しており、クラス全体への指導力を強化している。	(長所) クラスマネジメント力が向上すると学生の個別対応を少なくすることができる (課題) クラスマネジメントを専門学校生のレベルで実施することの難しさがある。		
基準5 教育環境					
小項目5-1 教育環境の整備点検、改善等				3	・大学、民間企業との連携による機器の譲渡等で実験・実習の根本が理解できるような体制になると良い。 ・学校の学びの中で最新の機器に触れておきたい気持ちもある。 ・確かに、先にある通り、貴学を訪問すると、課題がよく分かります。法律上の制約があることは分かりますが、何か手だてがないものかと思うばかりです。 ・教育に必要な施設・設備・機械器具は十分に備えてあることは高い評価ができます。 しかし、校舎の老朽化と狭さは今後の大きな課題だと思います。 それでも入学者が大勢集まることは、教育は人なり・教育は成果なりを実践している大きな偉業です。
5-1-1 専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。(補修、更新含む)	2	教育環境は十分とは言えない。設備や実験機器の老朽化も進んでいる現状 施設、設備についての点検と計画的な改修、補修については学園内に建物管理をする企業(DUCE)があり、定期的な点検及び中長期の改修計画をたて実行している。	(長所) 校舎の点検改修に関する業務を担ってくれる学園内企業があることで、学校現場は教育に注力できる。 (課題) 校舎、設備の老朽化 ゆとりのない教室環境		

小項目5-2 安全対策、防災組織				2.2	・有事対策、備蓄品、ハザードマップ等の把握は、準備されているという認識でよろしいですか？ →そのご認識で大丈夫です。 ・建物の構造上避難訓練は欠かせない。継続的に訓練を行ってほしい。 ・薬品等の取り扱いもあることから、生徒は、常に防災意識を持つことが大事である。安否確認システムは多くの企業でも採用している有効なシステムで学校側の対応の早さがうかがえた。 ・多くの学生がいるので、少し階段が狭い気がした。 ・建物自体が低層の建物なので、高層ビルのような設備は不要なので、3を選びました。 ・防災マニュアルや危機管理マニュアルを整備して、避難誘導の訓練も毎年実施している点は評価ができます。 ただ残念なのは、立地している場所が人口の多い住宅地と工場地帯であること。 校舎が古く狭い為に、地震に対する不安がつきまとうことで、学生や教職員の一時非難ができる校庭や公園がないことです。
5-2-1 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2	防災マニュアル及び危機管理マニュアルを整備している。学生、講師の入館システムを導入しており、学外の者の侵入を防いでいる。 毎年避難訓練を実施。2025年度は消火器使用に関する研修を実施した。学園として安否確認システムを導入しており、迅速な状況把握ができるようになっている。また避難用備蓄も備えている。	(長所) 防災に関するマニュアルや学園としての安否確認をシステムで出来ること (課題) 特になし。		
基準6 教育活動の基盤と情報の公表					
小項目6-1 中期事業計画と財務基盤				3	・年々とどまることなく、前に進んでいる。今後もそのような姿勢で経営をしてほしい。 ・明確に示されている。 ・海外情勢で不安な面もあるが、ぜひ、海外研修も復活させてほしい。 ・お金を費やしても専門知識を習得したい人は増えていると思う。専門知識の習得、維持は、転職やキャリア採用にも期待できる。 ・醸造や化粧品等に関する教育プログラムは、大変優れており、4年生大学ではまねできないものである。これをさらに拡大し、学生一人一人が参加できるような体制になると、将来の就職にも大きな力になると確信します。 * 最近、高専の卒業生の採用に各社が力を入れていることから、専門性、強みを持った学生が今まで以上に必要とされており、専門学校にはフォローの風が吹いている。 ・財務体制は学校法人滋恵学園が中心として収支計画・中長期計画を立案し運営計画を立てています。 公認会計士・監事による厳正な監査も的確に実施されており、安心できる体制が整っています。 その体制があつてこそ、修学支援や外国人留学生キャリア形成促進プログラムも益々充実を感じます。 財務が安定しているのは、人件費が全体の50%という、健全が証明しています。これは高い評価に値します。
6-1-1 当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3	事業計画は5か年で計画を立て運営している。 また事業計画は、滋慶学園グループの方向性に基づき、学校ごとに作成しており、また教育の方向性も示されている。 事業計画の進行状況は運営会議で確認している。	(長所) 学園全体として、各校の事業計画は5か年で計画している。 (課題) 人事計画は5か年ではないため、人事異動があると方向性が変わってしまう。		
6-1-2 当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。 【修学支援新制度機関要件の確認】 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	収支計画も5か年で計画している。また公認会計士及び監事による財務監査を毎年実施し、健全な財務体制を維持している。 財務基盤は安定していると言えるが、今後18歳人口が減少することを踏まえ、社会人教育など新たな事業を運営し始めている。	(長所) 醸造や化粧品など大人の趣味になりやすい社会人に向けた教育プログラムを構築しやすい。 (課題) 特になし		
小項目6-2 学校運営				2.7	・組織的な研修体制ができている。学び続ける教職員が体現できている。 ・大きな組織で運営することで、更なる発展が期待できた。 ・学生が惑わないようにしてほしいです。 ・学校は教務部と事務部には分かれているが、学生の指導にあたっては表裏一体となる協力体制があります。 学校の運営は滋恵学園共通としているために、すべての面でサポート体制と研修体制が整っています。 また細部にまで慈恵サービスというサポート企業が業務の分担を担っていることも大きな評価といえます。
6-2-1 学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	3	事務組織は学内で業務分担している他、滋慶サービスというサポート企業が給料計算等行っている。 学生サービス、広報、産学連携の各センターに責任者を配置している。 学校行事等で部署を越えて業務遂行にあたっている。	(長所) 学校は教務部と事務部に別れてはいるが、総職員数も多くなく、部署を越えて学生指導にあたっている。 (課題) 部署間での情報共有		
6-2-2 学校運営に必要な知識・技能等を身に着け、意欲及び資質を向上させるためにSD(Staff Development)活動などの取組が行われていること。	3	JESCの研修には新入職研修やフォローアップ研修、カウンセリング研修やマネジメント研修など職階ごとの研修、また教育改革センターの研修、パイオ教育部会等様々な研修で資質の向上を目指している。	(長所) 学園グループの研修が充実している。 (課題) 特になし		

小項目6-3 学校評価の実質と改善活動				3	・引き続いて情報公開を積極的に行ってほしい ・ホームページがとにかく見やすく、発信力がすごいと思っている。 ・学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会は毎年定期的に開催され、その意見や要望は確実に学校運営に反映されています。 また産学連携する関係企業や諸団体の意見・アドバイスを授業や研究の改善として受け止めていることは、今後益々の発展が期待できるものと大いに評価できます。
6-3-1 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその他の改善・向上において活用していること。学校評価を実施し、改善状況を公表していること。	3	学校関係者評価委員会は年1回、教育課程編成委員会は年2回開催しており、その意見は学校運営に反映させている。	(長所) 学校関係者評価委員会では学校運営に関する評価をいただくだけではなく、その年度の学校行事や産学連携の状況などの報告もしている。 (課題) 特になし		
6-3-2 学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	自己点検自己評価は学校関係者評価委員によって評価され、その評価については意見を取りまとめた上でホームページで情報公開している。	(長所) 特になし (課題) 特になし		
小項目6-4 社会からの理解と情報の公表				3	・卒業研究も多くの関係者が参加できている。昨年度(令和7年度)は学生の研究内容もレベルの高いものとなっていた。 ・上記6-1にも述べましたが、醸造や化粧品等に関する教育プログラムの実践に力を入れている、また卒業生で会社や店舗を経営している人たちがたくさんいることなど、さらに新聞や雑誌等でオープンにし、高卒後、ぜひ専門学校に行きたいという若者を増やせるよう、広報活動を進めてほしい。 ・学校運営や教育内容・学校関係者評価委員会そして教育課程編成委員会の意見や指摘、さらには財務状況や事業内容もホームページで公開している 体制は実に誠意ある姿だと高く評価します。 さらに産学連携の実績を公開することで、地域社会からの理解と信頼がさらに深まっていると感じます。
6-4-1 当該専修学校の教育活動、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表し、継続する教育機関、産業界、自治体等をはじめ、社会全体からの理解を得よう取組んでいること	3	学校のホームページで公表している。(財務諸表、事業報告、自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会評価結果、職業実践専門課程の認定情報等) 卒業研究発表会への企業の出席、産学連携の実績の公表(HP)等積極的に実施している。	(長所) 情報公開について、毎年ホームページ上の情報を更新している。 (課題) 特になし		